

初めて子宮頸がん検診を受ける方へ

子宮頸がん検診は、**20歳から2年に1回**受診することが勧められているがん検診です。このリーフレットには、あなたに理解してほしい**子宮頸がん**のこと、**子宮頸がん検診**のことを書いています。

よくご覧のうえ、わからないところがありましたら、お気軽に御質問ください。

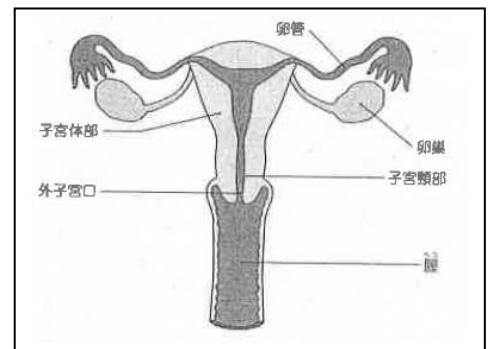
子宮頸がんについて

◆子宮頸がんの現状

子宮がんは、子宮の入り口である子宮頸部に発生する「子宮頸がん」と子宮の奥にあたる子宮体部に発生する「子宮体がん」があります。

近年では、**20歳代後半から30歳代に発症が急増**しており、20歳代から30歳代の女性においては、発症するすべてのがんの中で**トップ**です。

妊娠をきっかけに子宮頸がんが発見されることも珍しくはありません。



子宮と周囲の臓器

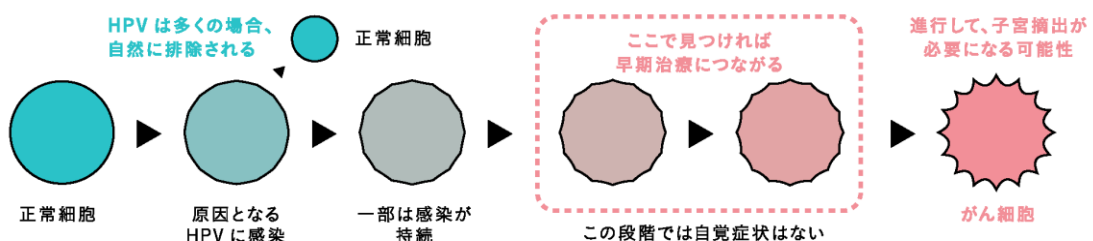
国立がん研究センターがん情報サービスリーフレット「子宮頸がん」より

◆子宮頸がんの原因

子宮頸がんの多くに、**HPV (ヒトパピローウイルス)** の感染が関与しています。HPVは、**性交渉により感染するウイルス**で、性交経験のあるすべての女性に感染の可能性があります。感染しても、多くの場合、症状のないうちに排除されます。

HPVが排除されずに感染が続くと、異形成という前がん病変（がんになる前の状態）を経て、子宮頸がんが発生すると考えられています。

そのため、**性交渉の経験のない方は、HPVに感染している可能性や子宮頸がんにかかる可能性は極めて低い**と考えられますが、一部には、**HPV感染と無関係な子宮頸がんもありますし、喫煙も子宮頸がんの危険因子**です。



子宮頸がん検診について



子宮頸がん撲滅シンボル
ティール&ホワイトリボン

◆検診の意義

子宮頸がん検診は、がん検診の中で、**唯一、直接目で見ながら検体を採取できること**から非常に有効な検診で、進行がんを防ぎ、死亡を減らす効果が証明されています。

子宮頸がん検診では、検診項目に含まれる**細胞診**という検査で、**異形成（がんになる前の状態）の段階で見つけることができます**。もっとも初期の段階のがんであれば、病巣を切除するだけでほとんどが治り、子宮を残すことができる可能性が高くなります。

初期の子宮頸がんは、ほとんど症状がありませんので、定期的に子宮頸がん検診を受けて、あなたの子宮や命を守りましょう。

◆検診の内容

①問診 ②視診 ③子宮頸部の細胞診 ④内診

②③④の検査は、**内診台**（美容室にあるようなイスで、楽に検査を受けることができる婦人科の診察台）で行われます。内診台には下着を脱いで座ります。多くの施設では、電動で椅子が上がり、背もたれが後ろに傾くと同時に両脚が開き、検診が受けやすい状態になります。お腹のところにカーテンが引いてあり、医師と直接目が合うことはありません。
恥ずかしい気持ちはあると思いますが、検診なので頑張って受けましょう。

②**視診**：腔鏡（腔に挿入する道具）を挿入し、子宮頸部の状況を見ます。腔鏡を挿入するときに**違和感**を感じたり、腔鏡を広げたときに**痛み**を感じる場合があります。

③**細胞診**：専用のブラシで、子宮頸部や腔部表面の粘膜をこすって細胞を採取し、顕微鏡で検査します。場合によっては、**出血することがあります**。

④**内診**：医師が腔に指を入れ、同時にもう片方の手でお腹を押さえて触診をするもので、子宮や卵巣の状態を調べます。

◆その他

※正しい判定のためには、月経中や月経直後は検診の受診を避けましょう。

※月経時以外の出血や性交中の痛み・出血、普段と違うおりものが増えるなど、気になる症状があるときは、検診を待たずに医療機関での診察を受けましょう。

※検診でがんが100%見つかるわけではありません。

また、検診の結果、要精密検査になっても、がんではないことも多くありますので精密検査まできちんと受けましょう。



熊本県・熊本産科婦人科学会・熊本県産婦人科医会